

1 理念 「子供の『幸せ』のために学校はある！～2030/2040年の日本を生きる子供たちへ～」

校長として本校3年目となる今年も、2030/2040年の日本を生きる子供たちの「幸せ」のために、すべての教育活動をブラッシュアップし、公立学校の可能性を拡げていきたいと思えます。大切にしたいのは「人は多様な人・モノ・コト（出来事）とのつながりの中で育つ」という公立教育の根幹と、「多様性の相互承認」という心理的安全です。

「人は多様な人・モノ・コト（出来事）とのつながりの中で育つ」×「多様性の相互承認」⇒小さな「変革を起こす力」

目指すのはくいつでも、どこでも、だれとでも自分の立ち位置を創れる人間像です。子供たちはやがて様々なコミュニティの中で生きていくこととなります。学校という守られた社会の中で、大いに人・モノ・コトとつながる経験を積んでほしいと願います。何度失敗してもいいのです。なぜなら、それは失敗ではなく「経験」だからです。自分と異なる考え、意見、行動と多く出会い、それをお互いに承認し合える安心感の中で、小さな「変革を起こす力（agency）」を育みたいのです。

2 2024 テーマ 「まず、やってみよう！ ～ 私の学校は私がつくる ～」

本年度も、このテーマを掲げます。短絡的かもしれませんが、今の光華小が目指す教育は、この言葉に尽きると思っています。まず、やってみる！・・・去年の子供たちの姿からも、その空気感が定着しつつあることを実感しています。

「やってみる」ためには、深い児童理解に基づき、子供たちの主体性を引き出す教員の仕掛けが必要です。子供たちの気付きを見逃さない教員の感性が必要です。教えこみではない、教員のファシリテーション能力が必要です。教師として資質向上のためにも、教員自身も「まず、やってみよう！」を大切にします。

まず、やってみる。それを「自分の言動への反応・反響を実感する喜び（自己効力感）」「人の役に立つ喜びと自信（自己有用感）」そして「自分を信じられる喜び（自己肯定感）」へとつなげていきたいのです。そこに、子供たちの未来の幸せがあると信じています。

令和6年4月吉日

次に、昭島市教育振興基本計画（令和4～8年度）の基本施策に基づいた、経営方針の視点16項目を提示します。